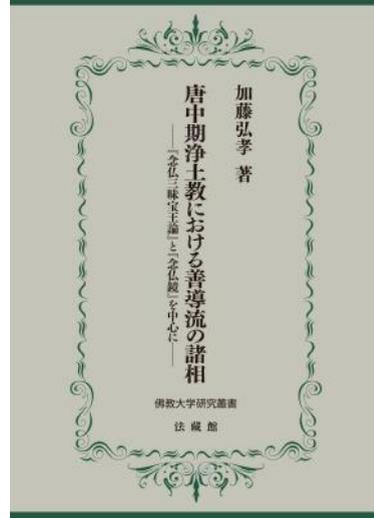


# 唐中期浄土教における 善導流の諸相

—『念仏三昧宝王論』と  
『念仏鏡』を中心に—

かとう ひろたか

加藤弘孝著 ▼A5判・上製カバー・400頁・本体八、五〇〇円十税



中国仏教史変革の時代に当たる唐中期の善導流の浄土教家の思想的特徴を考察して唐中期仏教全体の様相を浮き彫りにしていく。

2020年3月刊行

## 【目次】

序章 — 問題提起

第一部 『念仏三昧宝王論』の思想史的研究  
— その統合仏教思想に着眼して

第一章 『念仏三昧宝王論』研究史

第二章 『念仏三昧宝王論』の撰述年代  
— 飛錫の事跡に関連して

第三章 『念仏三昧宝王論』と飛錫遺文の関連性  
— 長安仏教界の動向を手がかりに

第四章 『念仏三昧宝王論』と廬山慧遠崇拜  
— 往生伝の変遷と関連して

第五章 『念仏三昧宝王論』に見える飛錫の修道論  
— 「無上深妙禪門」の概念を基軸にして

第六章 『念仏三昧宝王論』諸本の系譜について  
— その流伝背景と関連して

第七章 浄土教典籍としての『念仏三昧宝王論』

第二部 『念仏鏡』の思想史的研究  
— その人師信仰に着眼して

第一章 『念仏鏡』研究史

第二章 『念仏鏡』の時代相 — 大行の事跡を基軸にして

第三章 『念仏鏡』引用の「法王本記」

第四章 唐中期における善導観の特質  
— 『念仏鏡』の「誓願証教門」を中心に

第五章 『念仏鏡』における対三階教姿勢  
— 善導と金剛の論争の事跡と関連して

第六章 『念仏鏡』諸本の系譜  
— その流伝背景に着目して

第七章 善導阿弥陀化身説の起点としての『念仏鏡』

終章 — 唐中期浄土教史の再構築に向けて

参考文献／あとがき／英文目次／索引

### ◆著者略歴

一九八二年、京都市生まれ。二〇〇七年、佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻修士課程修了。二〇一三年、佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻博士後期課程単位取得満期退学、二〇一四年、博士（文学）取得。二〇〇八年—二〇〇九年、中国佛教協会交換訪問学者。現在、佛教大学非常勤講師。知恩院浄土宗学研究所研究助手。浄土宗松月院（京都市上京区）住職。

注文書	
(書店印)	
ご担当	様冊
加藤弘孝著 <b>唐中期浄土教における 善導流の諸相</b> 『念仏三昧宝王論』と『念仏鏡』を中心に ISBN: 978-4-8318-6135-1 C3015	
お名前	住所
お電話	法藏館 本体八、五〇〇円十税

ご注文はFAX: 075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入  
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458  
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

仏教・中国仏教